

ロデオに携わることはごく普通の流れだった

長く地元を離れて感じる 地域への思い

そんな長岡さん
オススメの大畑グルメは…
海峡サーモンのお刺身!



まさに大畑自慢の味。美味しい魚です! 気になるアナタ! 新しくなった直売所「北彩屋」で絶賛販売中です。



高校進学から大畑町を離れ、大学卒業後、東京でイベントの企画、CMなどを手がける広告制作会社に就職。

実家のお寺に戻った今も、その経験が、仲間の「地域を元気にしたい思い」をカタチにする。



曹洞宗 圓祥山 大安寺 副住職
イカす大畑カダル団 代表
海峡ロデオ大畑 事務局長

長岡俊成 さん

東京から大畑に戻って7年。自身の経験を活かせたらと、同級生を中心とした「イカす大畑カダル団」を結成し「ミナカダ祭」のきっかけを作るなど、精力的にまちおこしを進めてきた長岡さん。海峡ロデオ大畑においても「漁師たちの熱い思い」を「実現させる」つなぎ役として、活躍されています。

「カダル団が始めた森の中での活動が、川の流れのように市街地に広がって、最後は出口の海で漁師が立ち上がったくれたらいいなという思いがありました。その海で新しい動きが始まるうとしていて、知ったとき、自分が海峡ロデオ大畑に携わることはごく普通のことでした。これは応援しなければ。」

長岡さんがさまざまな活動に取り組む原動力は何ですか?

「地元を離れていたという後ろめたさでしょうか。約18年地元を離れた間に、大畑でも人口の減少や産業の衰退は見て取れました。そういう時期に自分は地元になかった。いまさら帰って何ができるだろうか。そういう後ろめたさに似たような気持ちで『地域のために何かできないか』という前向きな気持ちに切り替わっているんだと思います。」



海峡ロデオ大畑 会長
佐藤敏美さん
株式会社 金亀水産



海峡ロデオ大畑 副会長
濱田一歩さん
株式会社 金城水産



①とにかく行動力のある二人は名コンビ。②「春の津軽海峡 定置網 ぎよ魚! 漁獲体験」。定置網を引くことは滅多にない経験。③旅行企画に先立ち、自分たちの思いを説明。④参加者は、ロデオの名のごとく津軽海峡の荒波を体感した。⑤漁場までは、船のスピーカーから海の男の演歌を流しながら。人を喜ばせる細かな演出も欠かさない。⑥夜は「大畑のうまい」を聞いて。疲れた体を労うお酒で、会話ははずむ。⑦秋の旅行企画に向けての打ち合わせ。職種を超え、さまざまな力を出し合って進めていく。⑧サーモン食べ比べ膳。これだけでも参加する価値がある内容だ。



大畑は、
「何もありません」じゃない
海峡ロデオ 「自分たちができること」からの挑戦



下北にしかないものを発信していきたい

イカす大畑カダル団 みんなが「かだれる」まちおこし

長岡さんたちが立ち上げたまちおこしグループ「イカす大畑カダル団」。薬研温泉開湯400年の節目を祝う、まったく新しい祭「ミナカダ祭」が生まれるきっかけを作りました。

神事、神楽、伝統の手踊りからアフリカ音楽、アートの融合は、これまで誰も考えつかなかった斬新なイベントとなり、薬研を大いに盛り上げました。

しかし、開催までには大変な苦労があったと長岡さん。拠点となる「薬研温泉カフェカダール」の開店、大畑八幡宮例大祭の山車見送り幕を掲出してもらうためのお願い、雨との戦いなど高い壁があったそうですが、仲間たちや地域の方々のおかげで乗り越えられたと言います。

苦勞の甲斐あって、本番は大盛況。「みんなが『かだつて』、みんなで盛り上げるのが本来の祭りだと感じました。実は、これまで4回開催したミナカダ祭を盛り上げてくれた、大畑八幡宮例大祭に関わる若手のグループの十五會が、総合プロデュースのMATIOさんと再びタッグを組んで10月にミナカダ祭を開催すると聞き、ミナカダ祭が大畑の新たな祭りとして定着しつつあることを実感しました。これから、大畑のまちおこしの火付け役として、また、触媒としての役割を担っていければと思っています。」

大畑のまちおこしの先駆けとなったイカす大畑カダル団。今後の更なる活躍に期待が高まります。

「大畑つてさ、何も無いべ。」海峡ロデオ大畑の会長佐藤敏美さんは、最初にそう口にしました。

「でも、何も無いまちじゃない。美味しい魚はたくさんあるし、気のいい人たちもたくさんいる。じゃあ、何かやるべし。何かやらないとダメだ。若い者が立ち上がりないとダメだ。」

佐藤さんは、定置網漁船仲間の濱田さんと同年代の仲間を声をかけ、「海峡ロデオ大畑」を立ち上げました。そして今春開催した、参加者自ら定置網を引く漁獲体験や大畑の魚の食べ比べ、漁師行きつけの銭湯や「大畑のうまい」を囲んでの漁師との熱いトークを楽しむ旅行企画「春の津軽海峡 定置網ぎよ魚! 漁獲体験」は大成功。1泊2日の行程に、自分たちができる限りの「大畑の魅力発信」を注ぎ込みました。

海峡ロデオ大畑は、「荒波にもまれた美味しい魚を鮮度の良い状態で味わってほしい」「大畑の漁師の生き様を知ってもらいたい」「漁業の後継者を育成していきたい」という思いを持つ、水産関係者の枠を超えた多くのメンバーでつながっています。

7月下旬、広報むつは早くも第2弾旅行企画を計画する海峡ロデオ大畑の打ち合わせを取材させていただきました。

「昼食、秋はどうする?」「秋は

秋鮭がメイン。鮭とイクラの親子丼なんかどうだ。「やっぱイカの刺身をたくさん食べさせたいよね。」「だったら朝ご飯にイカ刺しを山盛り出してもらうように宿の女将さんに頼むべし。」「朝ご飯に食べてもらうのはいいな。大畑は朝にイカ食べるもんだ、みたいな。」「大畑の家の朝ご飯の雰囲気再現したら、楽しいんじゃないかな? 山盛りの皿をドンと置いて好きなように食べて! なんてさ。」「魚のさばき方見ても、イクラの漬け方まで見せたら楽しんでもらえるんじゃないか?」

出席したロデオのメンバーからの「いかに大畑を楽しんでもらうか」というアイデアは止まりません。自分たちが発信できるこのまちの魅力はなんだ? から始まる挑戦。一見「何も無い」と思われているまちに、本当はたくさん魅力が詰まっているんです。

そんな佐藤さん・濱田さん
オススメの大畑グルメは…

定置網で獲ったわいどの海の魚!

撮影: 山田ラボ



自然そして人づきあいの豊かさにあふれる下北は、日本人の生き方を大きく変えるポテンシャルを持っている



足湯を楽しみながらステージを満喫 見送り幕の前にもちつき踊り